

数1000回の明日こそ

そうじゃないの

どうしたの?
どこか痛いの?

元気がないね

それは
わかっているの



十分すぎる
ほど
わかってるの…

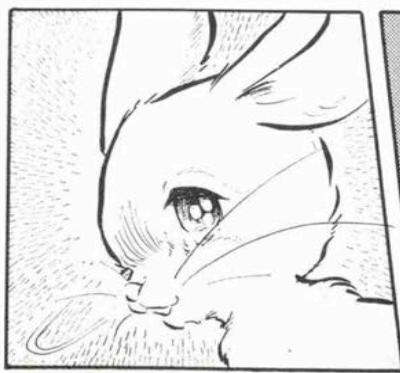
…あなたは
いい犬…

寒いのかな？

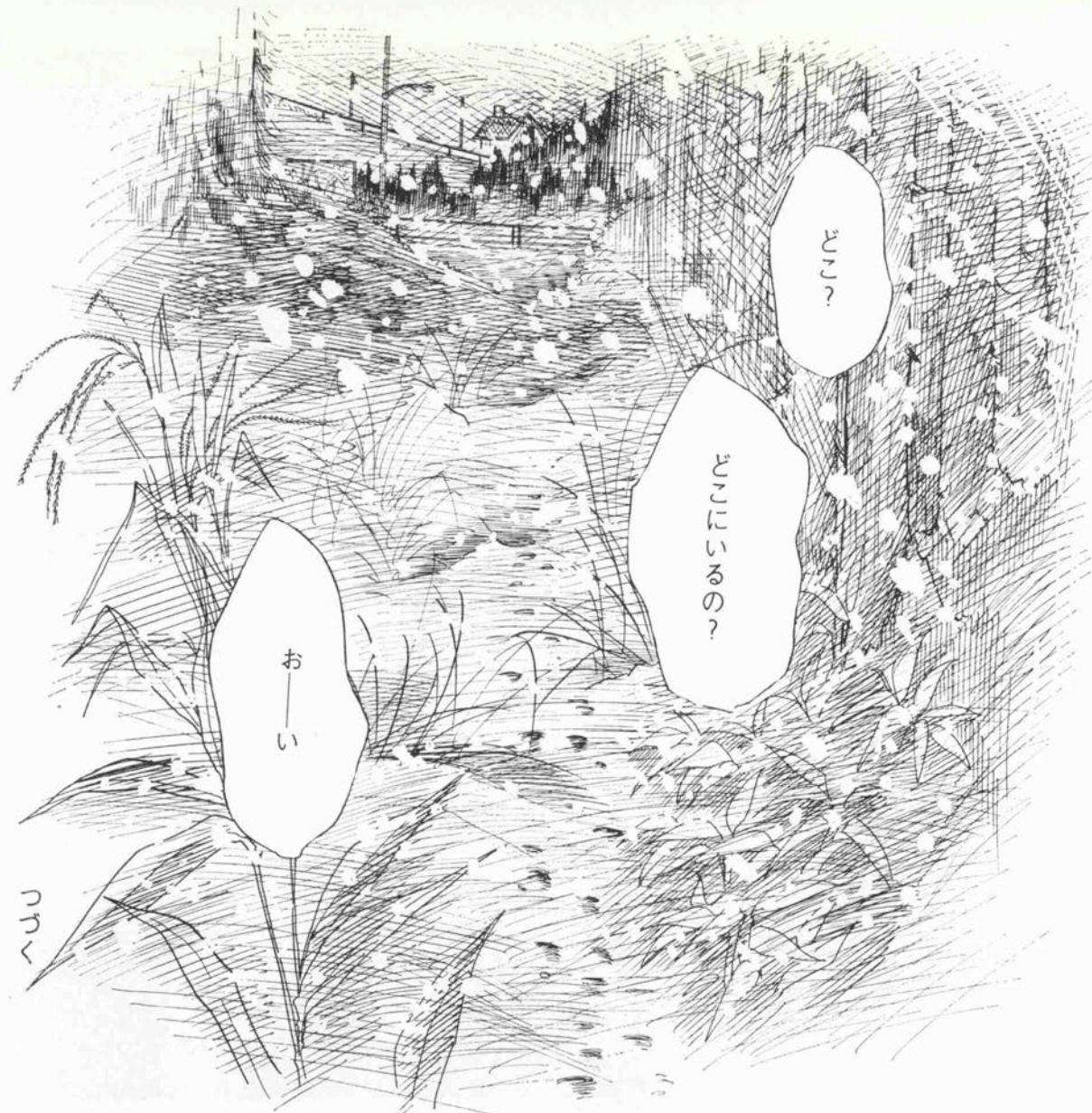
そうじゃないの

欲しいものが
ある？









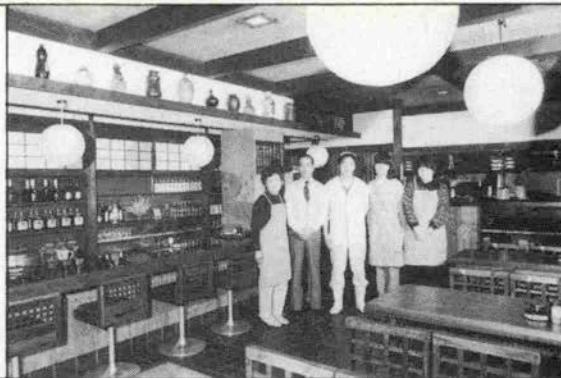
“通”が通いつめます冬の味

あっと驚く300種のメニュー

讃岐仕込みの手打ちうどんに、半年間熟成させた本返しを用いた出汁でうまさ格別。趣向を凝らしたメニューが楽しい。

名代讃岐手打ちうどん処
ときわ

灘区神ノ木通り 3-1-24 (灘区役所東隣り)
☎881-1333, 8333 11AM~2AM 無休駐車場有



守ります。手打ちの味

大正12年創業。2代目のご主人が心をこめて打つそばは腰が強く、独特の柔軟な味があり、通にはこたえられない。

手打ちそば
布引庵

中央区生田町 3-1-16 ☎242-0789
11:15~17:30 日祝休



灘の酒が勢ぞろい、味も豊かに

澤の鶴、白鶴、白鹿、大関、月桂冠と灘五郷の酒、新鮮な材料と60種のメニュー、酒の肴もぞんぶんに楽しめる気の抜けぬ店。

酒房・焼鳥

灘の郷

センターブラザ西館B1
三宮市場すぐ 11:00~21:00
第3水曜日定休 ☎332-0010



ほつと一息、あつたまりたいこのお店



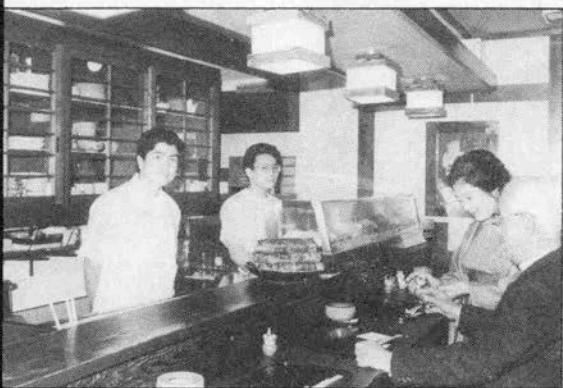
丹精込めた手打ち蕎麦

信州石臼挽蕎麦粉を手捏手打の自家製
蕎麦切り、変わり蕎麦などソバのあれこれ。
丹精込めた手打ちでソバ通も感激。

そば処

手打ち蕎麦堂

中央区加納町3丁目4-10 ☎392-1043
11:30~14:00, 18:00~21:00 日祝休



瀬戸内の旬と日本情緒

都会の喧噪を眼下に、ここは静かな日本
情緒の趣き。毎日筆で認めるお品書きが
旬を教えてくれる。接待にも女性同士も。

割烹スタンド
志乃

中央区北長狭通1-1-34 笹原ビル6F ☎391-7686
11:30~14:00, 17:00~23:00



手作りの豆腐料理は傑作揃い

とうふ懐石、お造り、煮物、油物とす
べて手作りの豆腐から生まれた傑作揃い。
「とうふ」ブームの折り、本物はここに。

会席・鍋物・仕出料理

樂珍

阪急西口店 ☎321-5200
宴会場 ☎332-1717

★神戸ファッション市民大学OBによるグループ

<神戸のファッション都市化をめざす>

事務局／神戸市中央区東町113-1 大神ビル9F
月刊神戸っ子内TEL (078) 331-2246

'84K.F.Sクリスマスパーティー Let's Dance



荒津会長

神戸市商工課松井泰男氏の乾杯

会場はダンス一色

恒例のK.F.S.クリスマスパーティーが、12月20日、生田神社社会館で行なわれ、参加した約150名の人々が大フィーバーした。今年のプログラムは、会長挨拶、乾杯の音頭に始まり、ジャンケンゲーム、ダンスタイム、紳士服・婦人服デザインコンテスト、フィーリングカップルファッションショー、抽選会、キャンドルサービスと楽しい企画が続々と登場した。

K.F.S.のクリスマスパーティーは、積もり積もった1年間の疲れが一瞬でふとぶような「騒ぎ」が特徴です。この日も皆が飲んで、踊って、笑って大騒ぎ。中でも、紳士服、婦人服デザインコンテストでは、男性の創った服を女性が身につけたり、女性の描いたデザイン画を男性に持たせるなど工夫を凝らしており、終始見ていた会場の人々からは笑い声が絶えませんでした。踊り狂った一夜の大パーティーは、お客様の笑顔を素敵なクリスマスプレゼントに残し、無事幕を閉じました。



紳士服デザインコンテスト



婦人服デザインコンテスト



なかなか決まってます



ロングドレスが素敵 ハイ、チーズ! / 殿方、うれしそう



殿方、うれしそう



魔女賞です

●2月のマンスリーサロン

日時／2月26日(火)

P: M6:30~

場所／市立労働会館4F

403号

講師／西島 勲

(神戸島ドライク)

(リーニング社長)

テーマ／『創る』のPARTⅢ。『アフターファッションについて』



SPECIAL MESSAGE

神戸百店会だより

St / VALENTINE'S / SPECIAL

♥ ユーハイム

好きな人に贈るバレンタインは勿論ステキだけど、ファミリーのバレンタインもとってもほほえましい。ファミリーで贈るなら、チョコレートよりも家族みんなで楽しめるケイキのほう

るい私。今は、自分を表現するのにどういった商品を贈るかという時代で

はどういった商品を贈るかという時代で

す。あなたたな

はの

</

★SF・怪奇映画ポスター

コレクション

ドラキュラ、フランケン

シティーン、ミイラ男、猿

人などの映画ポスターが続

続。マニアには垂涎モノの

SF・怪奇ポスター掲載本

が発行された。



マニア必見

別格にヒツコック監督

の作品も掲載。眺めている

だけで時間のたつのを忘れ

てしまう代物。続刊の予定

もあり、早い発行が望まれ

る。

「SF・怪奇映画ポスターコレクシ

ョン」映画堂出版発行、ブレイガイ

ドジャーナル社発売

¥2800



ハリジョンの
山口陽一さん

★神経性疾患の治療は針灸

にかかります

すぐそばにある針灸診療

所の名前。

ハリジョン。阪神芦屋駅

針灸と聞けばなんだ古く

さいと言う人が多いですが

「確かに日本では暗いイメ

ージが強いですが、西欧諸

国では医学の一分野であり

マナーの確立」この二つ

を提唱された。これこそ

昭和60年にひとつだけじ

めをつけるべき、見事な

提案だと感動した。

ある意味では言い尽さ

れてきたことではあるが

再度、より確実に実現を

めざすべき提唱であると

感じた。論議は尽された

ということだろう。

神戸の昭和60年の正月は

まことに和やかな明るい

幕明けであった。

新年勢頭。坂井兵庫県

知事は「太平洋時代での

大阪湾全体計画の抜本的

見直し、と生活の中での

ガンの治療などに広く利用

されているんですよ」と、

東洋医学診療科ハリジョン

の山口陽一さん。

KOBE POST

★ラジオ関西の松井政和専務の住

所が変わりました。〒655神戸市垂

東区千鳥が丘2丁目24番23号

★神戸文化ホールを昨年末退職さ

れられた演出家の岡田美代さんの「ご

くろさんバーティ」が、2月22日(金)生田神社会館4Fホールで、午後6時より開かれます。会費は1万円。

★ドイツのデュッセルドルフで10年を迎えた現代美術の植松塗二さんから、この秋、神戸へ居を移しデュッセルはアトリエとしておいて作家活動を続けたいという知らせが入りました。

★「みやび流押絵」の小西金精、手がよく治療にくるとか。

まずは自分で体験して、痛み止めを威力を發揮する

試験前に手足を痛めた選手がよく治療にくるとか。

まずは自分で体験して、痛み止めを威力を発揮する

試験前に手足を痛めた選手がよく治療にくるとか。

まずは自分で体験して、痛み止めを威力を発揮する

試験前に手足を痛めた選手がよく治療にくるとか。

★大日本除蟲菊K.K.(上山英介社長)が、創業百周年を迎えた金鳥創業百周年記念パーティを、大阪ロイヤルホテルで2月8日午後6時から開催。

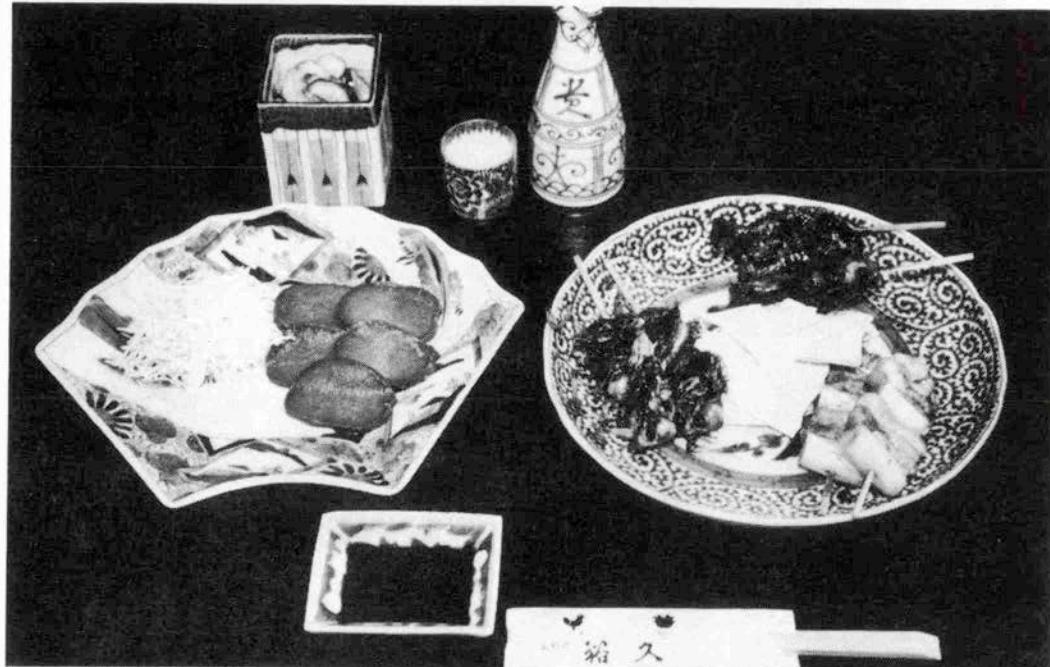
★北野町のコーナーハウスビルの3Fに「VIEW」を開店した宇津誠二さんが、昨年出版した「STOCKBRIDGE」が、ノーマン・ロックウェルの原画美術館「OLD CORNER HOUSE」に展示されることになった。

★カメラマンの「一ノ瀬元子さん」の住所が変わりました。フォト・スタイルオーフ(西宮市戸崎町5-3上甲子園マンション)514番07986ノ1ノ4番07986ノ1ノ2(58)6155★本誌に執筆中の橋本明氏の父君橋本早苗氏(神出病院院長)が、一月三日に他界され、四日通照院で告別式が行われました。

★本誌のカメラマン米田定蔵氏の兄・米田弘さんが、暮れの30日亡くなられました。ご冥福をお祈りいたします。

お客様にお出しする器はすべて古陶器の逸品です

さりげなく置かれた古陶器。料理と器の味をご賞味ください。



料理の味が冴える季節。馬刺し、すすめ、うずら、鴨ねぎは“通”好みの季節料理です。



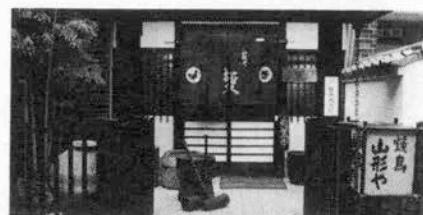
山形や 裕久

焼鳥 蒜めし

神戸市東灘区本山北町3-11 本山市場東 (阪急岡本・国鉄摂津本山各駅から徒歩3分)

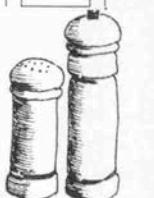
電話 (078) 452-2905 午後5時-10時 月曜休 (駐車場が近くに変わりました)

半焼鳥コース(皮・スリ・ねぎ身・ミニチ・野菜2種類)の他に、うずら、すすめ、鴨ねぎなどの野鳥料理、馬刺し、鹿刺しなど季節の風味をご賞味ください。





神
戸
で
味
わ
う



グルメが讃めるフランスの味

オーベックファンとはフランス語で「見事なくばし」の意味。料理の味にはどこまでもうるさくという願いをこめています。伊勢エビをはじめ魚介類の味が冴える季節。もちろん肉料理にもご満足いただけます。

神戸のエスプリ
Au Beu Fin
オーベックファン

灘区岩屋中町4-2-15 島文第3ビル9F ☎881-1530
11:30AM~2:30PM・4:30PM~10:30PM 無休

新鮮な味をお届けします

ハンター坂に面したどっしり落ち着いた構えの西洋割烹の店。神戸ビーフ、魚貝類を素材にバラエティに富んだメニューを眼の前で料理してくれる。店内には吹き抜けの中庭もあり、夜空を眺めながらの食事もできる。

To meet the  nicest people at
Queen's Court

中央区山本通2-13-11
☎ 242-2469

熱いものは熱く 冷たいものは冷たく

海の幸の盛り合わせを自慢とする、モダンなフランス料理の店。シェフの朝の中央市場への仕入れも、当店の味の秘訣。その日の味覚による6000円からのコースに、数種のワインをそえたすてきなディナーをお届けします。

フランス料理レストラン
シャン・ルーテン
中央区北野町3丁目1-1
☎ 242-4188

神戸の中のドイツがここに

神戸でも数少ないドイツ料理専門店。コース料理は値段も手頃で、味道楽にも人気を呼んでいる。ドイツといえばビール。シューバーテンなど3種類のドイツビールが楽しめ、電話1本で希望通りのワインも飲めます。

DEUTSCHES RESTAURANT

Heidelberg

中央区山本通2-8-15 ローズガーデンビル
☎222-1424



手頃な値段で高級中国料理を

料理長の李昌玲はテレビの料理番組にも出演し、オリエンタルホテルの料理講師をも務めたことのあるベテラン。高級中国料理を手頃な値段で味わえます。純中国風の赤い柱と緑の屋根の店作りもムード満点。

中國料理
榮和飯店

中央区栄町1-2-28 (丸大西口中华街)
☎392-1982 11:00AM~8:30PM 火曜定休



世界の料理

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

アンダルシアの夜をあなたに

フラメンコを楽しみながらスペイン料理の数々を……。
(メニュー) ミンチバイ(パステリート) ¥600 エンバナーダ ¥600
トルティージャ ¥600 バエリヤ(2人前) ¥1,800 コース/グラナ
ダ ¥2,000 アンダルシア ¥3,000
(2月のショータイム) 2日㈯16日㈯ 7:30PM, 9:30PM エルボカ
& フラメンコキエロス 9日㈯23日㈯ 7:30PM, 9:30PM ブーロ
フラメンコ 24日㈰ 7:00PM, 8:30PM, 10:00PM フォルクローレ
ロス・プラテーロス



スペインの味とフラメンコ
エル・パンチョ・ギタノ

中央区野町3-2-4(異人館通り) アニルドマンション1F
☎241-1344 6:00PM~1:00AM 水曜休





ヤヤ、こんなところに
店が(上)チャーリーブ
ラウンがお迎えします



かっては、港町といえば、船乗りがシンボルだった。
「異国情緒」というものは、なによりもまず、粋な姿の
外国船員が、もたらしたのである。

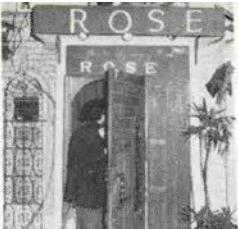
かつては、港町といえど、船乗りがシンボルだった。
「異国情緒」というものは、なによりもまず、粋な姿の
外国船員が、もたらしたのである。
*
腕に錨の入れ墨彫つて
やくざに強いマドロスの
お国言葉は違つても
恋には弱い啜り泣き

二度と逢えない心と心

踊るブルースの切なさよ

これは、「窓を開ければ、港が見える」で始まる、「別
れのブルース」(昭和十二年)だが、戦前の流行歌の一
ジャンルをなしていた「マドロスもの」の先駆は、輸入
映画「これぞマドロスの戀」の主題歌だった。昭和九年
のことである。
が、それも今は昔となつて、もはや、港—マドロスと
いうイメージは、あまり通用しない。もちろん、「コン
テナ化」のせいである。

が、それも今は昔となつて、もはや、港—マドロスと
いうイメージは、あまり通用しない。もちろん、「コン
テナ化」のせいである。
*
角本さんは、まず、栄町通りを越え、三和銀行の西・
*
水先案内が要る。私は、まず、港暮らし二十五年のキャ
ブテン・角本稔さんを頼りに、おつかなびつくりで、探
訪に出かけることになった。角本さんは、「港めぐり」
観光の船長さんである。



三平の 神戸おもしろ風俗記 その5

裏通りの エグゾテイズム

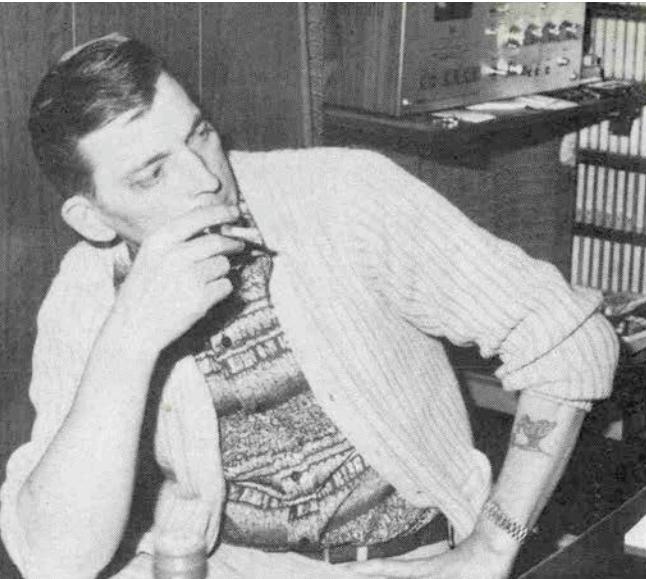
* * *

かつては殷賑を誇った、南京町の「外人バー」街も、
すっかりさびれてしまつた。夜の冷たい風にさらされな
がら街角に立つホステスたちも、「不景気でアカン
わ」とボヤくことしきりである。
もっとも、その分、辛うじて生き耐える外人バーは、
異国情緒をわずかに残す、貴重な風物となつたわけであ
る。

最盛期に比べて半減したものの、神戸港振興協会が外
人向けに作った「コーゲ・ダウンタウン・マップ」に
は、南京町を中心に二十八軒のバー・パブ・ナック・
クラブの名が載つていて、とくに、元町商店街の東から
一と三本目ぐらいの路地を、中華街に向かって南に入つ
たあたりには、ネオンまたたく横文字の看板が、ひしめ
いている。

が、一見の日本人客は、ちょっと入りにくい。やはり
水先案内が要る。私は、まず、港暮らし二十五年のキャ
ブテン・角本稔さんを頼りに、おつかなびつくりで、探
訪に出かけることになった。角本さんは、「港めぐり」
観光の船長さんである。

★
るばらいたー
小関三平
(神戸女学院大学教授)



とにかく絵になります。チャーリーブラウンのマスター、キディさん(上右)、サンシャインのマスター・ラウルセンさん(上左)、並んだボトルが醸し出すこの雰囲気(下右)お客様も

乙中通りを南に下って、ひょいと、真っ暗な狭い路地を入った。一人通るのがやつとの、京都で言う「切り通し」みたいな通路である。「ジキル博士とハイド氏」に出てくる、怪しげな裏町を思わせる、なにやら秘密めいた雰囲気が、私の気に入った。

そこを抜けたところに、古い倉庫みたいな建物があつて、うつかりすると見落としそうな、小さい白の標札が、さりげなくかかっていて、「チャーリー・ブラウン」とある。

入ってみると、G I 風の外人マスターが、所在なげにボツンと独り、カウンターの向こうに坐っていた。アメリカ人かと思ったが、デンマーク人だった。日本語は不自由らしいが、日本女性と恋におちて船乗りを廃業、店を開いて十六年、今ではもう、ちょっとしたカオらしい。

キディさんなどという、なんだか女みたいな名前だが、そう言えば、特注の店名入り灰皿も、チャーリー・ブラウンのマングがあしらつてある。マスターは、チャーリー・ブラウンのファンなのである。

だが、いわば正統派の外人ばかりだから、女気抜き、おツマミもなし、というのが原則で、その代わり、「アールボルク」などという珍しいデンマークのお酒が、安く飲める。ビール一本もウイスキー一杯も、たったの五百円である。

しばらくすると、馴染み客らしい銀髪の日本人紳士が現われて、なにやらデンマーク語でマスターと言葉を交しはじめた。この人は、いかにもアチラ通と

いう感じで、片肘をカウンターに乗せて、立って飲む。

ヨーロッパ仕込みの本格派スタイルなのである。

外人客が現われないので、キディさんに訊ねると、まだ時間も早いし、昼のほうが賑わうということだった。なるほど、船乗りの生活リズムを考えると、そんなものかもしれない。

*

*

*



すいぶん賑やかな看板(上右)ローズの仕かけ?!いえ、レポーターです(上中)。へい、どこ
の船員だ(下)、いやはやなんとも凄い店、ド迫力のローズ、船員さんものっています(左)。

実は、神戸の純外人バーの主流は、デンマーク系で、五軒はある。ヴァイキング以来の伝統もあるが、日本郵船なんかがデンマークの船会社をモデルにしたという縁もある、と角本さんが教えてくれた。

南京町の『サンシャイン』も、その代表格の老舗で、初来日以来三十年というマスター・ラウルセンさん——通称「ロバ(ート)」——は、この世界の名物男である。この人も、やはり元船乗りで、奥さんは日本女性である。ここでも、アールボルクのほか、リキュールの「カールーイア」とか「ガンメル・ダンスク」といった、デンマークのお酒が置いてあるが、カウンターの後ろの壁には、いろんな面白い格言や詩句が、真ちゅう板に彫り込まれて、飾られている。

客筋は、もちろん北欧系が多いが、日本人の通にも人気があって、たとえば、チャーリー・ブラウンで出会った銀髪紳士・大島さんとまた顔が合つたし、クラシックバー探訪の絵入りハガキを、月に一回、『グッド・バー通信』と題して刊行している、田中正樹さんや成田徹さんとも、私はここで識り合いになった。田中さんと成田さんによると、大島さんは、外人バーに詳しい大ベテラン、つまりはお師匠さん格で、「語学の天才」なのだそうである。

そうした人気の秘密の一つは、マスター夫婦の人柄にもあるのだろう。メガネをかけた小柄なヨシミ夫人は、朗らかで気さくだし、彼女が「ロバ!」と呼びかける旦那のラウルセンさんは、ハンフリー・ボガートそっくりで、声も低くて渋い、なかなか風格のあるオジさんで、

日本語も「ラーラ」なのである。

*

*

*

「人バー」というイメージにピッタリするのは、むしろ、こうした店だろう。

デンマーク系に次いで目立つのは、二軒あるギリシャ系のバー（『ゲオロギス』、『コスタス』）で、看板もギリシャ語である。当然、これらには、それぞれ、北欧やギリシャ人が集まつてくる。だが、文字通り「インター・ナショナル」というか、実にさまざまな国の若い船員たちが、ひつきりなしに押しかけてワイワイやつてゐるのは、なんと言つても、若いホステスさんを抱えた幾軒かの「クラブ」である。

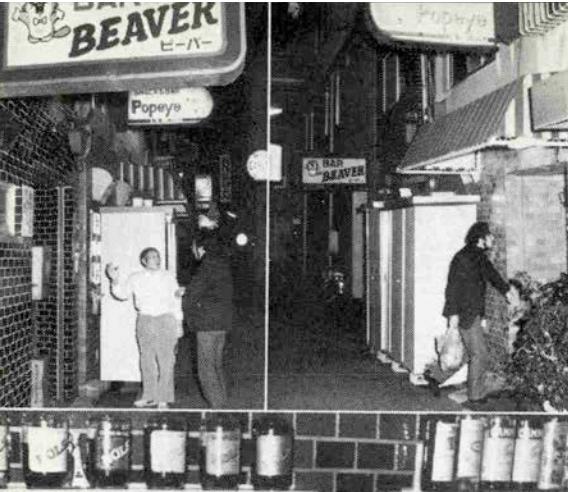
たとえば、入り口からして、なんとなく好奇心を誘うような造りの「ローズ」が、その典型で、ここには、ボックス席もあって、二度目に覗いたときなど、まさに芋の子を洗うような大入り満員で、カウンターには立ち飲み客がギッシリ、ディスコ・サウンドに合わせて踊る者もあれば、ボックスの隅では、ホステスさんを抱つこしてヤニさがつてゐる者もいて、まるでお祭り騒ぎだった。

私が若い船乗りなら、こういうところで、長い航海の憂さを晴らしたくなるにちがいない。「船乗り相手の外

けれども、今では、この種の店は減つていて、全体として不景気な外人バー街では、日本人客の比率が、どんどんふえているし、また歓迎されはじめているのである。たとえば、この道では古顔の「ボ・パイ」なんかもそうで、神戸の名物画伯・中西勝さんの御贔屓といふこともあって、絵描きさんたちのグループもやつてくるらしい。カラオケもあり、フロアがずいぶん広いからダンスだってできそうである。

中西画伯がわざわざ電話までしてくださったせいもあって、マスターの「元町のボ・パイ」こと安岡政信さんと奥さんのヨミコさんは、思い出話を、こもごも語つてくれた。

外人バーを経営して三十年という大ベテランだから、界隈の榮枯盛衰をつぶさに見てきた生き辞引きみたいな存在だが、最盛期の昭和三十六年ごろには、ホステスさん十五人を擁して大繁盛だったらしい。が、時代の波をかぶつて、今は四人、その代わりに（？）猫を十匹も飼つてゐる。



ん、これが中西画伯の根城（？）ボ・パイか（上右）、いや隣も姉妹店なんですか（上左）。ワンニャンとお迎えして頂きました（左）。

中西画伯は、「元町のボ・パイを書いたらオモロイ小説になるで」と、田辺聖子さんとケシカケてるそ うだが、深沢七郎に似た風貌のボ・パイおじさんの回顧談に耳傾けながら、五百円ナリのビールをし みじみ飲んでいると、「熟年」の仲間入りをして、夜の巷にもいささか飽いた私には、また一段と格別の味がしてくるのである。